

書評 Book Review

□徳永桂子 (著), 原正利 (解説): 世界のどんぐり図鑑 Keiko TOKUNAGA and Masatoshi HARA: **Illustrated Flora of Fagaceae Trees of the World. Beech, Oak and Chestnut.** A4 変型判 (27.5 × 23.2cm). 192 pp. 2020. 平凡社. ¥6,800 + 税. ISBN 978-4-582-54263-9 C0661.

最近、ブナ科の果実であるどんぐりを表題とした著書を2冊読む機会に恵まれた。原正利『どんぐりの生物学: ブナ科植物の多様性と適応戦略』京都大学学術出版会 2019年(本体2000円)と徳永桂子+(解説)原正利『世界のどんぐり図鑑』である。原氏の本はブナ科植物の生物学的な解説書で、ブナ科の進化・多様性・生態・適応についてどんぐりを中心に、森林生態学者である著者の調査体験も生かして豊富な内容をまとめている。個々の種に関する分類学的な記述はないが、ブナ科の総説として大変参考になる。構成と文章とも読みやすい。参考文献も豊富に挙げられていて、分類学関係のものも含まれている。原氏は元千葉県立中央博物館生態・環境研究部長、日本のブナ林の生態研究から始まり東南アジアの森林生態まで研究を広げた森林生態学研究的の第一人者である。一方、徳永氏の本はどんぐりをもつ世界の主なブナ科128種1雑種とナンキョクブナ科5種を描いた画集で、それぞれの絵には原氏によって学名、特徴、分布についての簡単な紹介が付けられている。徳永氏は1994年からどんぐりに魅せられてどんぐりを描き始め、現在も世界のどんぐりを描き続けている。以下では絵の美しさと迫力に打たれたので、徳永(著)・原(解説)『世界のどんぐり図鑑』を取り上げて紹介したい。

「どんぐり」は多くの日本人にとって親しみのある、童謡にも歌われていて魅力と懐かしさを感じる果実である。著者徳永氏の出発点もここにあって、興味が高じてどんな樹の実だろうかとかどんな種類があるのだろうかと進んでこられたのではないかと想像する。その成果が結晶して、本書となった。本書にはブナ科128種1雑種にナンキョクブナ科5種までが加えられている。内訳は「アジアのどんぐり」として70種、「ヨーロッパ・アフリカのどんぐり」21種1雑種、「アメリカのどんぐり」37種が描かれている。これらの種をそれぞれ



生育地に訪ね歩いて生品を描かれた熱意と努力には感嘆させられる(コラムのいくつかに制作の裏話がある)。本書はどんぐりだけを描いているのではなく、それを樹木の一部として枝葉とともにどんぐりが描かれているのがよい。クローズアップ写真の付けられているものもある。各種ごとに葉やどんぐりそのものの詳しい図があり、それらに加えて樹木全景(写真もあるが、オキナワウラジロガシ、ヨーロッパナラ、カリフォルニアホワイトオークの絵は大きくて特に迫力がある)、芽生え、花序、花などが描きこまれている。見ていて楽しい。残念なのはそれぞれの種について、例えば「高さ約××mに達する」というような表現で樹高が示されていれば、より生き生きと樹の姿を想像できたのではないかと思われることである。本書の最後には原氏による「世界のどんぐり図鑑・解説」がある。大井次三郎・太田洋愛の『日本桜集』のような種や品種の分類学的な記述ではないが、どんぐりとブナ科についての要を得た分かりやすい解説で本書の絵を植物学的な面から十分に補っており、よく引き立てている。本書のサイズは美術書によく見られる形で広げやすく、造本はしっかりしている。

(大橋広好 Hiroyoshi OHASHI)